

もし高校野球の女子マネージャーがドラッカーの『マネジメント』を読んだら

『もし高校野球の女子マネージャーがドラッカーの『マネジメント』を読んだら』（もしこうこうやきゅうのじょしマネージャーがドラッカーのマネジメントをよんだら）は、岩崎夏海による日本の小説。また、同書を原作とする漫画、テレビアニメ・映画作品。略称は「もしドラ」で、アニメではこちらが多用される（後述）。

概要

元放送作家の岩崎が自身のはてなダイアリーで 2008 年 7 月 11 日に書いた同名の記事[1]を読んだダイヤモンド社の編集者が岩崎に企画を持ちかけて制作された[2]。イラストはゆきうさぎ、背景は益城貴昌（bamboo）がそれぞれ担当している。

公立高校の弱小野球部でマネージャーを務める女子高生・川島みなみが、ピーター・F・ドラッカーの著した組織管理論手引書『マネジメント』[注 1]を偶然書店で手に取ったことを契機に部の意識改革を進め、甲子園を目指すというストーリーで一見、萌え本やライトノベルを意識したかのような装丁が採り入れられているのが特徴となっている。

あらすじ

川島みなみは東京都立程久保高校 2 年生。7 月の半ばに、病に倒れた親友で幼なじみの宮田夕紀に頼まれ野球部のマネージャーを務めることになった。

マネージャーになる際に、「野球部を甲子園に連れて行く」という目標を立てるが、監督や、幼なじみでキャッチャーの柏木次郎を始めとする部員らの反応はやはり冷めたものであった。事実、全国屈指の激戦区である西東京地区を勝ち抜くことは、現在の程高の実力では到底無理で、甲子園出場など夢のまた夢。さらに部内でも部員のやる気のなさや、監督の加地とエースピッチャー浅野との確執など問題が山積していた。だが、逆境になるほど闘志を燃やすタイプの彼女は、諦めるどころかやりがいを感じていた。

まずはマネージャーのことを理解しようと、書店で「マネジメント」の本を探すみなみは、店員に薦められるままにドラッカーの『【エッセンシャル版】マネジメント～基本と原則～』を購入する。だが、それが起業家や経営者のための本だったことを知り、「確認してから買うんだっ!」と後悔する羽目になったが、「せっかく 2,100 円も出して買ったんだし……」と気を取り直し、初めは参考程度に読み進めることにする。しかしその途中本文にあった「マネジメントに必要な唯一の資質は真摯さ」という言葉に衝撃を受け、なぜか号泣してしまう。その後、彼女はこの本の内容の多くが野球部の組織作りに応用できることに気付き、次第に夢中になっていく。

こうして組織や団体、機関の管理者としてのマネージャーの資質、組織の定義付け、マーケティングやイノベーションの重要性など、『マネジメント』を通じて様々なことを学んだみなみは、自分が「マネージャー」となって野球部をマネジメントできないものかと考え、夕紀や加地、後輩マネージャーの文乃、同じく『マネジメント』を愛読している二階らに協力を仰ぎ、『マネジメント』で学んだことを野球部の運営に当てはめ、部をより良くしていく方策を次々と実践していく。

『社会に対する貢献』を視野に入れた彼女のマネジメントは、野球部のみならず同校の柔道部や家庭科部等、程高の他のクラブにも好影響を与えていく。程高野球部が打ち出した「ノーバント・ノーボール」作戦は、後に高校野球にイノベーションを起こし、「程高伝説」と呼ばれるまでになる。

西東京地区予選を破竹の快進撃で決勝まで上り詰め、甲子園にリーチをかけた程高野球部。しかし決勝戦を前に、突然の悲劇がみなみを襲う。